

# 考える力を育てる言語活動 ～楽しく書かせるための指導の工夫～

新発田市立東豊小学校 教諭 澁谷 かおる

## 1 はじめに

ひらがなの習得から学習を始める「書くこと」入門期の1年生に、文章を書くことは楽しいと感じさせることは、考える力を育てるための大切なポイントであると思われる。そこで、①主題設定 ②取材方法 ③推敲と交流 の3点についての指導方法の工夫を重点とし、実践に取り組んだ。

## 2 授業実践の概要

### (1) 主題設定(誰に向かって書くか)

#### ①7月「すきなものなあに」

紹介したいことを、2文程度で書く単元である。クラスの友達だけでなく、他のクラスの友達の名前も覚えてきた時期だったので「1年生みんなに自分の好きなものを教えよう」という相手意識を持たせた。その結果、自分のことをたっさんの友達に知ってもらおうという意欲が高まり、何枚も進んで書く姿が見られた。



#### ②11月「しらせたいな見せたいな」

観察したことを記録する文章を書く単元である。学校内で飼っている生き物や世話をしている植物を紹介するという題材だったので、それを全く見たことがない人に紹介することにすれば、子どもたちはより詳しく書こうという意欲を持つのではないかと考えた。そこで、同じ中学校区のG小学校に依頼し、互いの学校にある物を紹介し合う文章を書かせることにした。自分の学校のことをよく知ってもらいたいという思いから、詳しく書こうという意欲が高まり、どの子ども、5文から9文くらいの文章を書くことができた。

### (2) 取材方法(どうやって書くか)

#### ①11月「しらせたいな見せたいな」

まず、学校の中や外をみんなで歩きながら、G小学校に紹介したい物を探した。その際「このうさぎは、かわいいね」「この花の形は、変わってるね」と、それぞれの思いを語らせた。

また、紹介したい物の絵を描き、紹介したい内容をメモ書きした段階で、同じ物を選んだ子どもたちで班になり、自分のメモを発表させた。

友達の語りや発表を聞くことで、どの子ども自分が書く内容に気付いたり、メモの数を増やしたりすることができた。



メモをもとに文章を書く段階では、目や鼻や手など、五感を使って書くことを意識させるカードを使う、文は短冊カードに書かせ、清書の順序を考えさせるという手だてをとった。書き方を丁寧に教えたことで、観察文の書き方が分かり、その後の生活科の「虫さがし」のカードには、虫の色や形はもちろんのこと「しぜんのにおいがしました」「とってもあばれんぼうです」「足にふわふわしたものがついていてきもちいいです」という文章も書けるようになった。



## ②12月「あつまれふゆのことば」

カルタの文を作る単元である。冬に関係のある言葉をたくさん集めた後、5・7・5の17音でできた文をいくつも紹介して暗唱させ、リズムを体感させた。

|   |
|---|
| サンタさん雪をちょうだいクリスマス<br>かがみもちとてもおいしいぷっくぷく<br>ゆきつばききれいにさいた白に赤 |
|---|

リズムを覚えたことで、どの子も17音のリズムでカルタの文を作ることができた。

## (3) 推敲と交流（見直しと評価の仕方）

### ①11月「しらせたいな見せたいな」

お互いの学校で、送られてきた作文を読み、1人の作文に4～5人が感想を書いた。その感想プリントには、「ようすがよくわかるようにくわしくかいていますね」「すきなわけがかいてあってよくわかりました」「字がじょうずですね」などと作文の良さがたくさん書かれていて、子どもたちはとても喜んで読んでいた。

### ②1月「おみせやさんごっこをしよう」

宣伝のちらしの文章を書く単元である。実際にお店やさんごっこをする前に、宣伝のちらしを見せながら、各店ごとに宣伝活動をさせた。このことで「おすす目が分かりやすい」「品物の良さが書いてある」「おまけもついているのが良かった」などと、他の店の宣伝ちらしの良さに気付くことができた。

その後、自分の店にたくさんのお客さんに来て欲しいという思いから、宣伝ちらしを書き加える姿がたくさん見られた。

## 3 日々の実践から

### (1) 日記の指導

2学期から、毎日連絡帳に日記を書いている。5文で書く、会話文を入れる、とんとんずもうの作り方が分かるように書くなど、その日のテーマや条件を提示し、5分以内で書かせている。その後、3分間自分で読み直し、誤字や脱字がないかを見直させ、誤字1字をマイナス1点で評価している。子どもたちは、百点を目指して、丁寧に書

いたり、じっくり読み直したりするようになった。保護者が、毎日の日記を楽しみにしてくれて、読んだ感想を子どもに伝えてくれるので、子どもたちも、毎日書いておうちの人に見せるのを楽しみにしている。

### (2) ミニ文集の発行

子どもたち全員の作文を、その都度印刷して配布している。国語の「書く」単元だけでなく、生活科のカードや行事作文も、ミニ文集にしている。

友達の文章の良さに触れることが、次に自分が文章を書く時の手がかりになり、その良さを真似する姿がたくさん見られた。

### (3) 例文指導

語彙を増やすために、国語の授業の最初に、例えば「のぞく」を使った短文を5分間で思いつくだけ書かせるといった例文作りをしている。取り上げる言葉は、物語文などで、子どもたちが最初は意味がよく分からないと取り出したものできるだけ選択し、その言葉の意味理解につながるようにしている。

例文が思いつかない子どもには、書き出しの例を示して続きを書かせている。また、その日のベスト1の例文を紹介して、思いつかなかった子にはその例文を視写させている。何回も続けるうちに、子どもたちは「今日の例文の言葉は何かな」と、例文作りを楽しみにするようになった。

## 4 おわりに

入学時、ひらがなをやっと書いていた子どもたちが、自分の考えや思いを伝える手段として、文章を書くことができるようになり、「何を書けばいいの？」などと聞くこともなく、すらすらと文章を書いている姿は、頼もしく感じるくらいである。書いている内容に個人差は大きいですが、どの子も書くことを嫌がることはなく、いつも自分の書いた文章にどんな感想が寄せられるかを楽しみにしている。これからも、友達の文章の良さにたくさん触れさせ、読んでくれる相手を意識させながら、楽しく文章を書かせる手だてを工夫していきたい。